

# ベンフォード分析

**対象フィールドの桁の値ごとに数をカウントし実数と予測数を計算します。**

## ◇機能

《ベンフォード分析》はフィールドに表示される最初の桁、または、指定の桁の組み合わせの数をカウントし、実数とベンフォードの法則によって計算された予測数を比較します。

	売上金額
1	2,000
2	3,000
3	4,000
4	5,000
...	

➔

先頭桁	実数	予測数	Z 統計量	下限	上限
1	110	98	1.449	81	114
2	54	57	0.372	44	70
3	74	40	5.548	29	52
4	52	31	3.775	21	42
...					

ベンフォードの法則によって計算された予測数を計算します。

## ◇メニュー

《分析》-《ベンフォード分析》

## ◇設定内容

ベンフォード分析
— □ ×

テーブル名: ベンフォード分析 1

分析する先頭桁数: 1  上限及び下限を含める 4 5

ベンフォードの対象フィールド 2

フィールド名	データ型
売上金額 <span style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-left: 20px;">3</span>	N

出力先 8

画面  テーブル

IF条件 7 6

保存先 9

キャンセル 実行
11 10

1. テーブル名 : 操作の対象となっているテーブルが表示されます。
2. ベンフォードの対象フィールド (必須)
  - : ベンフォード分析の対象フィールドを選択します。
    - 数値型フィールドのみ表示されます。
    - 指定できるフィールドは1つになります。
3. 《フィールド選択》ボタン
  - : 「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。
4. 分析する先頭桁数 (必須)
  - : 分析する桁数のパターンを指定します。
5. 上限および下限を含める (任意)
  - : 選択した場合、ベンフォード分析で許容できる数値の上限と下限を出力します。
6. IF条件 (任意) : 抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。
7. 《式ビルダー》アイコン
  - : 「IF条件」の条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。
8. 出力先 (必須) : 実行結果の出力先を選択します。デフォルトは、「画面」が選択されています。
  - 画面 : 実行結果を画面に表示します。
  - テーブル : 実行結果を新規テーブルに出力します。
9. 保存先 (出力先が「テーブル」の場合は必須)
  - : 実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。
    - テーブル名の長さは、64文字までです。
    - 「出力先」で「画面」を選択した場合は、入力できません。
    - ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04\_table」フォルダです。
    - 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトが保存されているフォルダの「04\_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。
10. 《実行》ボタン : 実行します。
11. 《キャンセル》ボタン : 実行せず画面を閉じます。

◇ 実行結果の表示

● 画面出力の場合

ベンフォード分析の結果が表示されます

「上限及び下限を含める」を選択した場合、[下限][上限]が表示されます

	先頭桁	実数	予測数	Z統計量	下限	上限
1	1	110	98	1.449	81	114
2	2	54	57	0.372	44	70
3	3	74	40	5.548	29	52
4	4	52	31	3.775	21	42
5	5	28	26	0.38	16	35
6	6	6	22	3.377	13	31
7	7	0	19	4.347	11	27
8	8	0	17	4.053	9	24
9	9	0	15	3.809	7	22

● テーブル出力の場合

	先頭桁	実数	予測数	Z統計量	下限	上限
1	1	110	98	1.449	81	114
2	2	54	57	0.372	44	70
3	3	74	40	5.548	29	52
4	4	52	31	3.775	21	42
5	5	28	26	0.38	16	35
6	6	6	22	3.377	13	31
7	7	0	19	4.347	11	27
8	8	0	17	4.053	9	24
9	9	0	15	3.809	7	22

◇ 操作ログ

**BENFORD ON FIELD** [ベンフォードの対象フィールド] **LEADING n BOUNDS IF** 条件式 **TO** 出力先

※「上限及び下限を含める」を選択した場合は、「BOUNDS」が記述されます。

※「IF条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。

※出力先は、「出力先」の選択により、記述が変わります。

出力先	ログ
「画面」を選択した場合	SCREEN
「テーブル」を選択した場合	"(サブフォルダ名)¥新規テーブル名"